

昭和55年度定期総会開かる

昭和54年度事業報告、決算報告の承認、55年度の事業計画、予算案の承認、55、56年度の役員、評議員の承認などを主な議題とする昭和55年度定期総会はさる5月23日に開かれ、学会実施賞、普及賞の授与および新会長記念講演があわせて行なわれました。

新会長の就任記念講演は、誌面の都合で8月号に掲載いたします。実施賞および普及賞は475、476頁に載せてあります。以下に総会の議事録と、事業報告および事業計画、決算・予算の概略をお知らせします。

昭和55年度定期総会議事録

日時 昭和55年5月23日(金)14:00~15:30

場所 日本電気株式会社 本社ビル2101号室

東京都港区芝5-33-1

出席者 小林宏治他664名(内委任状による出席642名)

ただし会員総数1942名(1/3は647名)

上記のとおり出席者が定款に定める定足数に達したので定款第28条により小林会長が議長となり議事録署名人に佐久間孝、横井 満の両氏を選出して議事に入る。

第1号議案 昭和54年度事業報告の件

佐久間理事より、昭和54年度事業報告(別掲)を行ない、異議なく承認された。

第2号議案 昭和54年度決算報告の件

横井理事より、昭和54年度決算報告(別掲)を行ない、異議なく承認された。

第3号議案 昭和55年度事業計画の件

矢島理事より、昭和55年度事業計画案(別掲)を説明し、原案のとおり承認された。

第4号議案 昭和55年度予算案の件

横井理事より、昭和55年度予算案(別掲)を説明し原案どおり承認された

第5号議案 昭和55年度役員選任の件

昭和55年度の役員を別掲のとおり選出した。

第6号議案 昭和55年度評議員の件

昭和55年度の評議員を別掲のとおり選出した。

上記で議案の審議を終了し、第4回日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞、第5回日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞の発表ならびに表彰に入った。

原野表彰副委員長より選考経過の説明があり、会長より第4回日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞は兵庫県に、第5回日本オペレーションズ・リサーチ学会

普及賞は横山 保氏と日科技連グループにそれぞれ授与された。

昭和54年度事業報告書

1. 研究発表会およびシンポジウム

(1) 3月14日、15日の両日、新日本製鉄株式会社・中尾教育センターにおいて、第45回研究発表会を開催し、3月16日には、九州電力の地熱発電所を見学した。

特別テーマ 経営とOR

特別講演

1) 時局講演—九州地域の政治・経済について

益田 憲吉

2) 制御過程・配分過程の逆理論 岩本 誠一

3) 産業医学の最近の動向について 土屋健三郎

一般発表 84件(特別テーマを含む)

ペーパー・フェア 9件(")

(2) 9月20日、21日の両日、東京理科大学理工学部特別教室において第46回研究発表会を開催し、9月22日には、キッコーマン醬油株式会社を見学した。

特別テーマ 企業におけるOR

特別講演

1) 地下水公害 福岡 正巳

2) 企業とOR 中川東一郎

3) 不動点アルゴリズムと数値計画法

小島 政和

一般発表 92件(特別テーマを含む)

ペーパー・フェア 11件(")

(3) 9月19日、東京理科大学理工学部特別教室において、第7回シンポジウム「ORとエントロピー」を開催した。

2. 総会

定期総会

4月27日、学会センタービル会議室において第8回

定期総会を開催した。

議題 (1) 昭和53年度事業報告ならびに決算報告

(2) 昭和54年度事業計画案ならびに予算案の
審議

(3) 昭和54年度役員を選任

(4) 3賞(文献賞・普及賞・実施賞)の表彰

表 1 研究部会終了, 中間報告

*印: 終了部会

部 会 名	主 幹 査 事	メンバー	開催回数	内 容	場 所
*都市計画と交通	馬 場 西 木	19名	10回	都市活動に必要な資源、施設と交通の関連を、エネルギーに重点において研究討議し問題への接近を試みて成果を得た。	東洋経済新報 社会議室
*政 策 科 学	福 島 細 貝	14名	11回	意思決定科学と行動科学を結びつける1つの方法として、専門家集団の投票採点による政策評価手法の効用と問題点などを検討した。	三菱総合研究 所会議室
ゲーム理論と その応用	鈴 木 武 藤	10名	16回	ゲーム理論の基礎理論およびその社会的問題への応用の研究を行なった。特に本年度は情報への問題をゲーム理論を用いて考察し、有意義な成果が得られた。	東京工業大学 情報科学科会 議室
*ゲ ー ム の 理 論	坂 口 栗 栖	15名	6回	ゲームの理論とその応用に関する種々の問題を幅広く研究した。	大阪大学基礎 工学部数理教 大セミナー室
*電 力 シ ス テ ム	青 木 権 藤	7名	4回	電力システムのOR的問題、計画に対する数理計画の応用の研究、発表が行なわれ、新しい成果が得られた。	中国電力 中部電力 四国電力
*流 通	横 山 柳 井	6名	0回 (注)	厚生省所管の薬価基準のOR的アプローチを日本薬剤士会より依頼されたので流通部会がこれを担当し、最後に“バルクライン方式に関する2・3の考察”として柳井幹事がとりまとめ53年の薬剤士会総会に発表、JORSJ Vol. 21 No. 3 に掲載した。	OR学会事務 局
*地 域 環 境 計 画 マ ネ ジ ム ン ト	佐 々 波 小 岩	4名	12回	環境アセスメントの隘路といわれる住民参加に視点を向け、参加型合意形成手法の検討を中心に研究を行なった。手法としては「METRO-APOX」と「LONS」を取り上げ日本への適用可能性について検討し、フィールドスタディを実施し、その可能性を確認した。	社会環境シス テム研究所
数 理 計 画 法	茨 木 福 島	29名	11回	数理計画法全般の理論、応用の紹介および情報交換を行なった。具体的には線形、非線形、整数、幾何、多目的計画法の最近の話題を中心に、サーベイおよび研究成果の発表があり、有意義な成果が得られた。	京大倉庫 大阪新住友ビ ル
日本における社 会システム分析	小 島 小 岩	30名	5回	日本のリソースマネジメント研究部会において、日本におけるリソースマネジメントの本質について3年間研究を積んだが問題解決に限界がきたので、改めて、社会システムの見地からアプローチすることにした。現在リソースマネジメントに関連して問題となりつつある事項を社会システムの見地から1つ1つ分析を加えつつ研究中である。	統計数理研究 所 日本能率協会 会議室
数 理 計 画	刀 根 大 山	24名	8回	数理計画法全般にわたって、モデルにおける定式化、理論構築、応用実例あるいは問題解決方法としてのアルゴリズムの効率化等に関する研究成果の報告の場情報交換の場として活動を行なっている。数理計画法に関する理論、応用両面の研究成果が期待される。	電力中央研究 所会議室
実 施 理 論	松 田 太 田	30名	11回	OR/MS、コンピュータによる情報システムの実施に関する文献的研究およびプロジェクト形態による実施に関する当部会独自のモデル化についての検討を行なった。	東京工業大学 工学部会議室

(注) 研究活動は53年度中に終了した。

- (5) 新フェローの紹介
 (6) その他
3. 理事会・評議員会
 昭和54年4月より理事会7回、評議員会を1回開催した。
4. 各委員会
 編集委員会 12回
 研究普及委員会 8回
 IAOR委員会 9回
 表彰委員会 3回
5. 刊行物
 「JORSJ」Vol. 22, No. 1, 2, 3, 4の4冊および「オペレーションズ・リサーチ」第24巻第3号から第25巻第2号まで12冊発行した。
6. 国際協力
 (1) IFORS (国際OR学会連合)の諸活動に協力・参加した。また昭和56年ハンブルグで開催予定の第9回国際OR会議の論文募集を行ないつつある。
 (2) 「IAOR (International Abstracts in Operations Research)」の発行に協力するとともに、IAOR誌の国内頒布を行なった。
7. 研究会活動
 次の研究部会が活発な研究活動を行なった(表1)。
8. 普及活動
 (1) 月例講演会(表2)
 (2) ORサロン(表3)
9. 支部活動(表4)

10. 表彰

- (1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞
 1) 第7回日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞を下記に対して授与した。
 • “On the Homotopic Approach to Systems of Equations with Separable Mappings”
 Mathematical Programming Study 7
 小島政和(東京工業大学)
 • “Maximum Flow Problem in Discrete-Continuous Compound Systems and Its Numerical Approach” JORSJ Vol. 21, No. 2,
 田口 東(東京大学)
 2) 第8回日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞の選考を行なったが該当者はなかった。
- (2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞
 1) 第4回日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞を下記に対して授与した。
 森口繁一(電気通信大学)
 2) 第5回日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞の選考を行ない下記のとおり決定した。
 • 横山 保(大阪大学)
 • 日科技連グループ
- (3) 日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞
 1) 第3回日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞を下記に対して授与した。
 中部電力株式会社
 2) 第4回日本オペレーションズ・リサーチ学会実施

表2 月例講演会

通算回数	場 所	開催年月	テ ー マ	講 師	参加人数
第72回	中国・四国	54年4月	ORを活用するための一般的な考え方	三 根 久	34
第73回	中 部	5 月	ファジー環境での意志決定	西 田 俊 夫	36
第74回	本 部	7 月	Theory of Scheduling	C. L. Liu	23
第75回	九 州	11月	企業における管理技法の適用について	小 山 博 敏	21
第76回	本 部	55年2月	エネルギー危機への挑戦 —オフィスビルの省エネルギー—	白 井 猛	15

表3 ORサロン

通算回数	開催年月	テ ー マ	会 場	参加人数
第19回	54年4月	ゲーム理論とOR	学会センタービル	9
第20回	10月	数理計画とOR	電力中央研究所	11
第21回	55年1月	在庫問題について	中部品質管理協会	14
第22回	2 月	社会工学とOR	学会センタービル	13

表 4 支部活動

	北海道	東北	中部	関西	中国・四国	九州
運営会議	支部総会 1 回 運営委員会 3 回	支部総会 1 回 運営委員会 1 回	支部総会 1 回 運営委員会 1 回 幹事会 5 回	支部総会 1 回 運営委員会 1 回	支部総会 1 回 運営委員会 1 回 幹事会 5 回	支部総会 1 回 運営委員会 1 回
研究会	研究会 2 回	研究会 2 回	研究会 7 回 事例研究発表会 1 回 研究発表会 1 回	研究部会 2 件, 24 回		研究会 6 回
講演会	月例講演会 1 回 講演会 1 回	講演会 1 回	月例講演会 1 回 講演会 1 回	特別講演会 1 回 研究講演会 5 回	月例講演会 1 回 講演会 5 回	
講習会					講習会 1 回	
出版			支部ニュース 10 回 事例研究発表会 アブストラクト 1 回 研究発表会 アブストラクト 1 回			支部ニュース 6 回
その他	情報化週間行事に協賛	春季研究発表会実行委員会 3 回	OR サロン 1 回 見学会 2 回 懇親会 3 回 懇親ソフトボール 1 回 懇親ハイキング 1 回 小野名誉会員古希を祝す会 1 回		講習会関係会議 4 回	春季研究発表会反省会 1 回

賞の選考を行ない下記のとおり決定した。

兵庫県

11. 会員増強

前年度に引続き会長直属のタスク・フォースとして、3 回にわたり会員増強策を検討するとともに答申書を取りまとめた。あわせて会員増強の基礎資料として、会員の現状と学会活動に対する意見調査をした。

12. 他学協会との交流

4 学会（日本経営工学会，日本品質管理学会，日本人間工学会，日本 OR 学会）連絡会を 2 回開催し情報交換をはかった。

13. 会員状況(1980年2月末日現在)

名誉会員 5，正会員 1858，学生会員 177，賛助会員 102

昭和54年度決算報告 (単位：円)

- (1) 収入：会費収入 26,969,793; 事業収入 14,055,690;
その他を含め収入合計 51,039,162
- (2) 支出：合計 46,529,916
次期繰越 4,509,246

昭和55年度事業計画

激動の80年代を迎え、オペレーションズ・リサーチの

発展、活用が強く望まれている。この社会的要請にこたえて、昭和55年度は、下記の学会活動を活発に行なうとともに引続き会員増強、財政的基盤の強化に努める。

1. 研究発表会、シンポジウムおよび総会

- (1) 研究発表会は、春秋 2 回開催し、春季は 3 月 27 日、28 日に仙台において、秋季は 10 月 7 日、8 日東京において開催する。さらに見学会を 3 月 29 日および 10 月 9 日に研究発表会と同時に行なう。

特別テーマは春季は「省エネルギーと OR」、秋季は「コンピュータと OR」とする。

- (2) シンポジウムは 10 月 6 日東京において行なう。

- (3) 定期総会は 5 月 23 日東京において行なう。

2. 刊行物

- (1) 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」を 12 号、論文誌「Journal of the Operations Research Society of Japan」（日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌）を 4 号発行する。
- (2) 研究発表アブストラクト集を 2 回発行する。

3. 国際協力

- (1) 国内の OR 文献抄録の作成を通じ I A O R 誌の発行に協力するとともに I A O R 誌の国内頒布を行なう。

(2) 第9回OR国際会議(1981年7月,西ドイツで開催)参加および視察団派遣の準備を行なう。

(3) 来訪するOR専門家との接触の機会を密にする。

4. 研究部会活動

「ゲーム理論とその応用」,「数理計画法」,「日本における社会システム分析」,「数理計画」,「実施理論」の既設5研究部会の活動を引続き推進するとともに「創造性開発の数学モデルとコンピュータ・ベースド・デザイン」,「経営コンサルタント」,「政策問題」,「予測とその周辺課題に関する研究」,「交通問題」の5部会を新設し,その活動を開始する。

5. 研究調査

適当な機関からの研究調査委託に応ずる。

6. 普及活動

研究部会,学会誌の特集テーマ等にもとづく,セミナーを企画し実施する。月例講演会,座談会,学会活動の広報等のOR普及活動に努める。またOR誌をはじめ,OR普及活動について広く意見を求めるためのモニター制度の設置について検討する。

7. 地方講演会

本部より講師を派遣し,地方講演会を開催する。

8. 支部活動

各支部において研究会,講演会,見学会等の活動を行なう。

9. 表彰

文献賞,実施賞ならびに普及賞の昭和55年度選考を行なうとともに,今年度より事例研究奨励賞を設け,その選考を行なう。

10. 受賞推薦

他の学協会の依頼に応じ受賞候補者の推薦に協力する。

11. 他学会との交流

4学会(日本経営工学会,日本品質管理学会,日本人間工学会,日本OR学会)連絡会をはじめ,他学協会との交流を積極的に進める。

昭和55年度予算(単位:円)

- (1) 収入:会費収入28,680,000;事業収入14,015,000;
その他を含め収入合計51,274,246
- (2) 支出:管理費15,281,200;事業費33,612,000;
その他を含め支出合計51,274,246

第8回OR学会文献賞

例年どおり,学会誌を中心に会員からの推薦を募集,国内外の関連学術誌に掲載された日本人論文の中から選考を行なった。最終段階まで検討の対象となった論文は1件で,理論的にはかなりの水準に達しているものと評価されたが,今後に一層の期待をすることとして,本年度は文献賞の授与は見送るとの結論に達した。

第4回日本OR学会実施賞

昭和54年度の実施賞は,表彰委員会の推薦により兵庫県に授与することが理事会において決定し,5月23日開催の昭和55年度定期総会において表彰された。

兵庫県

選考理由

ORの実施により実り多い成果の期待される分野として,公共諸団体における組織だった適用が早くから指摘され,待ち望まれていた。兵庫県は早くから地方行政の各局面にORを導入することの重要性を認め,地道な基

礎的研究のうえに組織だったOR活動を展開し,諸計画の立案ならびに多岐にわたる諸業務実施の面に適用して大きな成果をあげている。

すなわち同県におけるORの適用は昭和37年の「埋立地の土地利用計画策定分析」にはじまり,その後総合開発課等企画部門を中心とした計量経済学的分析と予測,生活環境施設需要の計量分析など次第にその適用範囲を拡げ,昭和48年の総合計画策定の際に行なわれた「兵庫ダイナミックス」の作業を契機にコンピュータの大規模活用による政策分析の体制を確立する方針が決められ,専門担当組織も設立された。以後,データ・ベースの開発整備,各種のモデル開発,諸計画分析用プログラム・パッケージの整備が進み,今日のOR活動体制ができてきた。その適用分野は,兵庫県の総合計画策定のための広範囲にわたる一般的計画情報の収集,分析のほか,県税の収入予測,産業雇用構造,人口・経済動向等の分析,総合交通体系計画,水資源需給予測と計画,福祉政策計画,その他,きわめて広範囲に及んでおり,それらの実情は,同県の公報誌,各種調査報告書などのほか,OR誌,学会機関誌,専門雑誌,単行本,その他に広く紹介されている。

また,OR要員の後継者育成のために専門要員の採用,筑波大学,埼玉大学の政策科学大学院への国内留学生・研究生の派遣のほか,随時市内での研修を行なうなど,

教育にも大きな努力が払われている。

以上要するに兵庫県は行政の諸局面にORの考え方や手法を積極的かつ適切に応用して目覚ましい成果をあげているのみならず、身をもって新しい地方行政のあり方を示しており、その業績は高く評価される。

よって理事会は当学会賛助会員である兵庫県に対して日本OR学会実施賞を授与することを決定した。

第5回OR学会普及賞

昭和54年度の普及賞は、表彰委員会の推薦により横山保氏と日科技連グループに授与することが理事会において決定し、5月23日開催の昭和55年度定期総会において表彰された。

1) 横山 保(大阪大学教授)

選考理由

ORが今日のように経営管理関係者のほぼ常識となるまでに広く、深く普及してきたその背景には、導入期から今日までの長い年月にわたり、わが国各地の研究者、実践者の絶え間ない努力と献身があったことはいうまでもない。

横山保先生が年月的にも地域的にも、きわめて広い範囲にわたり、情熱をもってORの研究・普及に貢献されたことは広く知られているとおりである。

すなわち横山先生は、1956年に経営科学協会を創立、理事に就任された。これは翌年日本OR学会創立の際、その1つの母体となったものであり、その機関誌「経営科学」は同学会の機関誌として引き継がれた。この学会創立の際、先生は一方ならぬ尽力をされたが、以後も同学会の副会長、理事、関西支部長その他の要職につかれ、ORの研究・普及に貢献された。関西地区においては1959年、関西OR協会(現関西経営情報科学協会)の創立に参画され、以後副会長、理事、運営委員として同地域における産学協同の場を確立された。また1974年以降毎年、マネジメント・サイエンス・コロキウムを通じ、内外の研究者十数名を招待してORの国際交流・普及に独特の貢献を続けられている。さらに多数のすぐれた研究論文、著作、「IFORS 京都」の企画運営、産学協同の推進、企業におけるORの個別指導、講演会、講習会等を通じて幅広い活躍をされた。

このように先生は30年の長い年月にわたり、ORの研究、啓蒙、教育、普及、実施に尽力され、特に関西地域におけるOR活動の中心となって貢献された。これらの功績はきわめて大きい。

以上の理由により横山保先生を推薦します。

2) 日科技連グループ

選考理由

ORを広く普及し、大きな成果をあげてゆくためには研究水準を向上させる研究活動と並んで多面的な教育普及活動が不可欠であることはいうまでもない。日本科学技術連盟、日科技連出版社、日本科学技術研修所からなる「日科技連グループ」がORの研究援助、教育普及の両面において果たした役割はきわめて大きい。

すなわち、1952年にいち早くOR研究のための委員会を設置し、翌年その成果をまとめて、わが国最初のOR教育コースを開催し、わが国におけるOR活動の基礎を築いた。

以後、今日に至るまで、トップ、部長、中堅の階層にわたった教育コースのほか、財務、人事組織、物流、応用数学、研究開発その他のテーマ別コースを開発し、Dantzig, MIT グループを含む内外の講師を招き、研修所計算センターも協力してニーズに応じたセミナーを幅広く展開してきた。中でも中堅層を対象としたOR教育コースは現在すでに49回目を迎え、参加企業約600社、参加人員は5000人を超えるに至っている。

一方鉱山系、機械工業系OR委員会、評価要因委員会などの研究グループの援助、産学協同の研究の場としてのシンポジウム開催、委託研究の推進援助、OR研究発表会、石川賞による研究表彰など、多様な活動を通じて研究活動の援助に尽力を続けている。

また、現在本学会の機関誌となっている「オペレーションズ・リサーチ」については、その創刊以来20年の間、その発行を担当した。そのほか、モース、キンボール共著の「オペレーションズ・リサーチの方法」、わが国のOR活動を集大成した「OR事典」など異色の出版物を含むOR関係の専門書、入門書は50点を超えている。

以上要するに、日科技連グループがその多面的、精力的な諸活動を通じて、わが国ORの研究水準の向上と啓蒙、教育、普及のために尽した功績はきわめて大きい。

よって普及賞候補に日科技連グループを推薦します。